

平成24年3月期 決算説明会Q&A

【ビジネス状況】

Q: 計測事業の第4四半期の地域別動向と、今期の見通しについて教えてほしい。

A: 第4四半期だけでなく、通期でも全地域で好調だった。日本はLTE開発用の投資が想定以上にあり、アジアでは製造用の需要が増大した。今期も同水準でのビジネス継続を想定している。

Q: 計測市場の規模と成長率を教えてください

A: 当社が対象とする市場規模は約5,000-6,000億円と推定している。市場成長率は全体で年3-5%と見ている。

【今期見通し】

Q: 計測事業の今期売上高見通しが前期並みの意味合いはなにか

A: 2012年3月期は、スマートフォンやLTE関連での需要急拡大がドライバーとなり、当初想定を大きく上回る結果となった。2013年3月期も同水準で市場が成長することは想定し難く、前期の高い水準でのビジネスが継続すると考えている。

Q: 今期のモバイル計測ビジネスで、開発用途と量産用途の比率をどのように見ているか

A: 前期のモバイル市場向け売上高は計測事業の約45%であり、LTE開発用途と3G製造用途がほぼ半分ずつである。今期も、同じ比率を想定している。

Q: 計測事業の四半期や半期での見通しを教えてください

A: 当社のビジネスは顧客の投資動向の影響を受けるため、半期・四半期といった比較的短いスパンでなく、年度単位での見通し開示が望ましいと考えている。

【中期経営計画】

Q: 中期経営計画における計測ビジネスの成長要因として、市場成長とシェア拡大のどちらがインパクトが大きいのか

A: 市場成長の方が大きなドライバーだが、シェア拡大による成長も見込んでいる。

Q: 中期経営計画における、利益創出の考え方について教えてください

A: ROICを意識した経営を基本としている。

Q: 中期経営計画の中で、M&Aは検討しているか

A: 2020VISIONの実現に向けて、M&Aを含め、新しい事業の比率を20%程度にしたいと考えている。

Q: グローバルな競合企業と比較したアンリツの課題について教えてください。

A: 当社は、先端技術分野でのビジネスには強みがあるが、汎用分野でのグローバルなブランド力によるビジネス展開や、グローバルな規模でのローカルサポート力に改善の余地があると考えている。

【IFRS適用について、その他】

Q: 2013年3月期から国際会計基準(IFRS)を任意適用する理由は何か。

A: 当社グループは、連結売上高の約6割、主力の計測事業の売上高の約7割を日本国外が占めており、また、日米欧に研究開発拠点を置くなどグローバルに事業を展開している。このため、内部の意思決定プロセスの改善等により経営基盤の強化を図るとともに、財務情報の国際的な比較可能性向上による資金調達手段の多様化を目指し、任意適用することにした。

Q: 積み上がったキャッシュの用途について何か考えているか

A: 2012年度の普通社債の償還および借入金の返済に充当するほか、生産キャパシティの増強など経営インフラの強化や、新事業開発に関する投資を考えている。